

令和7年度 都留市文化財審議会
(第1回会議)
資料3

「文化財指定業務の検討について」

○継続的な文化財指定業務の実施及び有効活用

- 本市の文化財指定業務は平成23年度以降停止している。本市が所蔵する資料や本市内に位置する文化財について指定することは、資料価値の認知度の向上につながるとともに、後期基本計画における「歴史文化の保護・発信」の観点からも重要な取組である。
- 今後の動きとしては、先行してミュージアム都留が所蔵（寄贈資料含む）する資料について改めて洗い出しを行い、個別具体的な調査を行う過程を経て、文化財審議会へ諮問を行い、継続的な指定業務につなげていく。

○令和5年度における文化財審議会委員からの意見

- 指定業務に際し、無形文化財の担い手については深刻な問題であり、現状本市では指定の無形民俗文化財は条例に種別としてあるが存在していない。平成24年に山梨県で民俗芸能緊急調査も実施され、戸沢の金山神社の神楽が調査をしている。こうしたデータに基づき指定制度を利用することで、お祭りの担い手に自分たちのお祭りの歴史や意義を知っていただく機会にもなる。
- 企画展においても単に展示をするのではなく、例えば文化財指定の調書を作成して、展示品を指定する等、組み合わせて取り組むのが良いのではないか。ただ企画展をやってお終いというのはもったいないので、「指定」という視点を入れて博物館運営を図ることが望ましい。

指定候補案件の選定と調査⇒文化財審議会へ諮問⇒翌年度：文化財審議会による答申・指定
※2か年で1つの資料について文化財指定を行うスケジュールを想定

【指定対象の資料】

- ・ ミュージアム都留が所蔵し、過去に企画展を行う経緯で具体的な資料情報を持つ旭岳麟関係資料を指定の対象とする。

【委員意見】

- ・ 旭岳麟についての研究をさらに進め、全体像をつかんでから指定化を進めたほうがよいのではないか。
- ・ 資料1点ではなく、同時期に描かれ、来歴が判明している作品を含めて作品群として一括指定した方がよいのではないか。また、作者である岳麟の経歴を調査して明らかにした方がよい。岳麟の存在や作品があくまで『都留の今昔』の調査でのみ明らかになっており、紀州時代の岳麟の足跡というのとは分かっていない。
- ・ また、岳麟が仕えたという紀州候も誰か特定されていない。この件について、和歌山県立博物館に照会できていない。同館では紀州候に仕えた絵師の展示を過去に行っているため、何か手掛かりがあるのではないか。
- ・ 郷土の画家として都留で活躍した絵師の「地域資源」の観点から、市の指定としていくのが望ましいと考える。



旭岳麟《松竹梅鶴図》部分 明治前期
紙本着色 四曲一双 175×720cm 都留市

【方針】

他の市内における所有者への調査や、和歌山に照会をするなどを行い、「地域資源」としての資料群として指定を進めていくものとする。

【旭岳麟の紀州との関係】

- 20代で江戸に向かい、紀州お抱えの絵師となる。
- 作品にも「紀州森田にて描く」などの内容がある。
- また、鷹の絵を得意とし、紀州候より留め筆が命ぜられ、紀州候以外には鷹の絵は描かなかった。
- 廃藩置県後、地元である旭にて没す。

【和歌山県立博物館への問い合わせ】

- 平成26年に和歌山県立博物館では「企画展 江戸時代の紀州の画家たち」という企画展を開催している。紀伊藩は、江戸幕府のお抱え絵師となった狩野派の流れをくむ画家を登用し、祇園南海や桑山玉洲といった全国的に有名な文人画家が、和歌山を活動の拠点としていたとされ、企画展では複数の画家について展示を行っている。
- 今回調査にあたり和歌山県立博物館の担当者に確認したところ（当該企画展の担当者は前任とのこと）、旭岳麟の名前は初めて聞いたとの回答だった。
- また、当該企画展の展示リストでは岳麟の作品は確認できないとのこと。
※別添の展示された一覧

【今後の動き】

旭岳麟について、和歌山県立博物館でも情報収集をしていただける運びとなった。ただし、先方の都合により、8月2日以降の回答になるとの事。

旭岳麟関連資料の寄贈について

- 令和7年5月29日に横浜にある旭岳麟の家系の親族より(都留の関係者を代理として)、数点、岳麟に関する資料の寄贈があった。
- 記録によると岳麟の菩提寺である正蓮寺に2本の刀が奉納されているが、そのうちの1点が今回寄贈された。奉納されたのち、昭和30年代に改めて関係者に返還された様子。1本は横浜、1本は都留の関係者宅にあるものと思われるが、後者の所在については明らかではなく、調査中。
- いずれの資料についても所在が明らかであり、旭岳麟関係資料に位置付けられるものと思われる。

R6年度までの
当館所蔵資料

種類	点数
掛軸	4点
屏風	1点

R7年度寄贈資料

種類	点数
掛軸	3点
下絵	6点
刀	1点

R7年度計

種類	点数
掛軸	7点
屏風	1点
下絵	6点
刀	1点
計	15点

【今後の動き】

- 指定にあたっては本年度の寄贈資料も含め一括で取り扱う予定。
- 所有者への聞き取りなど、詳細の情報収集が必要。





